



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして

11



「帰り道」 トライズ 福吉 幸実 さん ※紹介が7ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 「かさでらホーム」スタートから1年半が過ぎて P2
- ▶ つゆはしショップの取り組み P4
- ▶ 「3回目の成人式」を迎えました！ P9～12

2020年11月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会 検索

「かさでらホーム」

スタートから1年半が過ぎて

はじめに

1年半前、ご本人・ご家族同様、ホーム職員も期待と不安を抱きながら「かさでらホーム」での実践がスタートしたことが思い出されます。入居者7名には、7通りの「これまでの生活」がありました。共同生活において個を大切にしながら、集団としてどうすり合わせて個々の生活を組み立てていくのか、出発にあたって職員集団で話し合ったことでした。

おやつや夕食の時間、入浴の時間など、生活のスケジュールを立てるには、服薬状況や除去食品の有無、食事形態、生活習慣など、その人を知ることから始まります。疑問に感じたことや分からないことは、その都度、ご家族や作業所に相談を行い、解決に向けて協力をしていただきました。

見受けられた変化

新しい環境に慣れるまでは、「それなりの時間を要す」と思っていたのですが、各々が自身の過ごし方を組み立てていける姿が見受けられ、感心するばかりでした。入浴の順番など「譲れない」といった場面では、カードで順番を可視化しました。説明をすると「仕方がないなあ」と共同生活において発生するルールと自身の想いをすり合わされる姿も見受けられました。

開所してからは、職員がいろいろな場面で仲間同士の人間関係を調整することがありました。しかし、一緒に暮らして1年半が経過するなかで、仲間同士がお互いを理解し、尊重する姿へと変化が見受けられます。職員との関係性にも見受けられた変化です。

スタートした体験型利用

今年度、これまでの「ゆたか生活支援事業所みなみ」は、「ゆたか生活支援事業所かさでら」と事業所分割を行いました。職員の異動などで体制が変わり、新しく勤務に入る職員には、ちょっとお試し行動をする仲間の姿もありました。

昨年の12月から「体験型利用がスタートした「かさでらホーム」」。新型コロナウイルス感染症の影響で3ヶ月間中止となりましたが、7月から再開することができました。中止期間中、再開の目途が立たないなか、仲間から「体験はいつから始まるの?」という言葉が聞かれ、とても嬉しく思いました。職員間でもやり甲斐を共有することができました。

たくさんの方の感謝を皆に

暮らしの場は365日24時間の支援を必要とします。7名それぞれの暮らしがあるなか、いろいろなことがありました。滑つての骨折や無断外出、仲間同士の意見の違いによるちょっとしたいざこざ等々。

報告・連絡・相談を行うなかで、ご家族には、ハラハラドキドキと心配をおかけすることが多々あったと思います。どのような時にも、職員の立場に立って深い理解を示してくださった皆さまに感謝です。今後ともよろしくお願ひ致します。

ゆたか生活支援事業所かさでら

原田恵子



かさでらホームお誕生日会 ▶ 体験利用の仲間もお祝い

ワークセンターフレンズ星崎

10周年記念創作に 取り組みました

2007年10月、小規模作業所「フレンドハウス南」が事業移行を行い「ワークセンターフレンズ星崎」が誕生しました。

10周年を迎えた2017年には、いつもより豪華な食事をゆつくりと楽しんだ日帰り旅行と、これまでの実践や歴史を振り返る記念冊子「かけはし」を発行しました。そして3つ目に取り組んだのが、今回の記念創作でした。「ひとり人が関わることを大切に」と話し合い、自分の顔をパネルにすることにしました。

パネルに自分の顔を転写して、クレヨンや、絵の具で鮮やかに色を塗りました。焼き上がった完成品を見ると、それぞれ特徴のある素晴らしい作品となりました。3階にある食堂の壁に貼り付け、食堂の雰囲気がとてもよくなりました。

10年後、同じように自画像を描くと、どんな作品になるかとても楽しみです。

稲垣 伸治



自治会連合会が アンケートを実施し、理事長と懇談

自治会連合会の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年3月の定例会より停止となりました。今回のアンケート調査のきっかけは、8月に石橋会長から「役員全員が集まるので定例会はできないけれど、何か他に活動できることはないだろうか」と、提案があったことです。各自治会で取り組み、調査結果をまとめ、理事長との懇談を行いました。



自治会連合会役員と理事長との懇談会 (10/6)

アンケートで寄せられた仲間たちの「声」

感染防止のためにとりくんでいること

- ・給食は時間をずらし一度に食べる人数を少なくしている
- ・距離をとるために、床に足形をはったり、座る場所にシールをはっている
- ・エレベーターには3人しか乗らないようにしている

感染対策をとりながらとりくんでいる行事

- ・コロナの学習会をした
- ・昼食に出前を取った
- ・施設内でバーベキューをした
- ・外食の取り組みをプールに変更した

感染について不安や心配なこと

- ・自分が感染したらどうしようかと心配
- ・作業所が開所になったらこまる
- ・病院が受け入れてくれるか不安

法人や行政への要望

- ・コロナで仕事ができなくなっても工資を保障してほしい
- ・検査が簡単に受けられるようにしてほしい
- ・自治会連合会を開いてほしい(リモートでも)

懇談会には、石橋会長をはじめ4名の自治会連合会の役員さんが参加し、アンケートに寄せられた各事業所からの要望を理事長に報告しました。特に石橋会長からは、コロナ感染が拡大してからずっと中止になっている自治会連合会の会議の開催が強く求められました。

職員ではネットを使ったリモート開催が定着していますが、自治会関係の会議にも広がっていくことが今後の課題になってくると思います。

2020
夏

つゆはしショップの取り組み

★ポーナセールから つゆはしショップへ

つゆはし作業所の伝統的な行事である「ポーナセール」は、多くのお客様に支えられ、続けることが出来ています。それでも「ポーナセール」という呼び方は、なかまには浸透しているが、お客様にとって分かりにくいのでは？」ということから、「変更しよう」となかまに募集を行いました。なかまとの話し合いの結果、新しい呼び名は「つゆはしショップ」、そしてキャラクターの名前は「はしえもん」と命名しました。



スローガンは、「売り上げ目標金額130万円」「つゆはしの事をみんなに知ってもらおう」「ありがとうをたくさん伝えよう」の3つに決定しました。以下、スローガンごとに取り組みを紹介しま

「売り上げ目標130万円」

新型コロナウイルスにより経済が落ち込んでいくなか、お客様がつゆはしショップにご協力頂けるか不安がありました。そこで昨年の売り上げ実績に基づいた金額に設定し、売上を伸ばすために必要な事を話し合いました。

また、営業件数を増やすこと、「食品がないの？」とおお客様の声から、何点か食品を取り入れることにしました。そして、生活介護の「まねきねこ班」がマスクの製造を始めたので、自主製品として販売しました。マスクの写真？

「つゆはしショップ みんなに知ってもらおう」

コロナウイルス感染予防対策のため、なかまの営業と配達は中止にしました。「まずはできることから」ということで、近隣の方につゆはし作業所のことを知っていただく為に、1件1件ポストイングを行いました。なかまと職員が暑い中、汗を流しながら回った結果、5件の注文をいただくことができました。

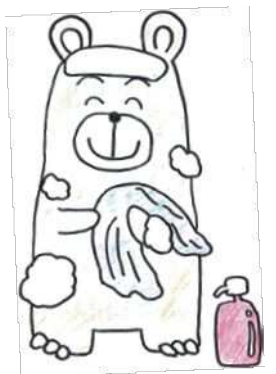
「ありがとうをたくさん伝えよう」

なかまが配達に行くことができないため、お客様に「ありがとう」を伝えるために、「なかまの手書きのお礼状を渡そう」ということになりました。感謝の気持ちが込められたステキなお礼状が完成し、仲間を代わって職員が手渡しでお届けしました。お客様にも好評で、返事を送ってくださった方もいました。

また、環境事業所の即売会では、職員の皆さんに毎年沢山の商品を買っていただいています。「なかまよし班」のなかまでは、「ありがとう」の気持ちを込めて、「ゴミ収集車の絵を描いたポスターをお送りしました。

2020夏「つゆはしショップ」の取り組みは、目標を超える180万円を達成することができました。コロナウイルスの影響で売上が減少すると思っておりましたが、前向きに新しい取り組みを行ったことが成果へとつながったと振り返りをしました。

冬に向けては、「自主製品をたくさん売る」を目標に、またコロナウイルスに負けない取り組みをしていきたいと思えます。乞うご期待！です。



はしえもん

9.16
副所長会議で

「障害者・家族の生活実態調査」について学びました

はじめに

田中先生をお招きしての副所長会議での学習会は、当初5月に予定していましたが、コロナ禍の中で延期され、9月にWebを活用した半日の取り組みとして開催しました。

先生からは「ぜひ、現場の声を聞きたい」ということで、事前に調査結果資料と意見交換したい内容3点を提起して頂き、参加者はグループワーク用メモを作成し、当日に臨みました。参加した副所長は25名。田中先生の報告後、Web上でグループに分かれる機能（ブレイクアウトルーム）を活用し、グループワークも行いました。

田中先生からのお話

田中先生からは調査結果の概要、家族介護の限界性、高齢化の影響、家族からのケアの引継ぎ、離家後の家族・本人の交流、ケアラーの生活について、表に基づきその特徴が話されました。

「家族同居の限界が、家族と専門職ではズレがある」「加齢の影響について、家族と本人の自覚はほぼ一致」「家族自身の健康不安と職員の認識にはズレがある」等、どの報告も興味深いものでした。

田中先生からの

メッセージ

この度は、お忙しいところ、ゆたか福祉会の高齢期調査に多くの当事者・ご家族・職員の皆様にご協力いただけただけなこと本当にありがとうございます。家族の高齢化に伴い、様々な課題が生じていることは、多くの実践現場から経験的に語られていますが、何がどのような問題として生じているのか、それは制度とどのような矛盾があるのかについての全体像は明確になっていません。

また、今回のゆたか福祉会における調査の大きな意義としては、高齢化に伴う実態や意識について、当事者・家族・職員の三者の意見を把握できたことです。本問題については、他団体から家族や職員それぞれの立場で発信されていますが、三者の異同についてはわかっていませんでした。

立場の違いによって、高齢期の問題の在り方は、異なる部分があることが見えてきました。これから、さらに皆様の意見も反映しながら、安心して老いることのできる社会の在り方について、提起していきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

この調査結果については、本来であれば保護者連合会研修会や職員研修等で、直接田中先生から報告をして頂く予定でした。しかし引き続き、対面での研修開催が困難となっている今、来年1月号から広報誌を通じ、障害者家族の高齢期の生活問題等について連載をお願いするごことになりました。

全国障害者問題研究会の機関誌「みんなのねがい」では、2020年4月号から「高齢期を迎えた障害者と家族へ老いる権利の確立をめざして」と題して田中先生の連載も始まっています。10月号以降ではこの調査にも触れられていますので、また機会があれば一読ください。

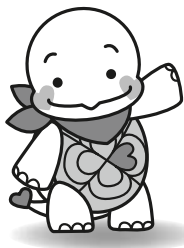
ゆたか福祉会からも実践発表

〜名障連研修に参加して〜

はじめに

「名障連」(名古屋知的障害者福祉施設連絡協議会)は、名古屋市内の障害児・者関係事業所が80ヶ所以上加盟している団体です。研修では「新規採用者研修」をはじめ、「ソーシャルワーク研修」や「リーダー職員研修」等、様々な研修を行っています。今年度の前半期はすべての研修を中止せざるを得ませんでした。

このようなかで「名障連」では、加盟事業所へのアンケートも行ったが、後半期は感染症対策等、いくつかの研修をオンライン研修として開催することになりました。以下、参加した職員の感想を紹介します。



10.8

感染症防止研修

新型コロナウイルス感染の恐ろしさを知らしめたのは「ダイヤモンドプリンセス号の船員・乗客合わせて3713人中540人が集団感染した」と、連日報道していた事かと思えます。

今回、名障連では、3月から船内の除染作業を行った業者から正しい除菌方法を聞くことになり、事業所あつたも7名がZOOMで受講しました。

研修では正しい拭き方・手袋の着脱方法・除菌の場所・流れ、除菌に適する洗剤などについて学び、「職員の日頃の消毒方法を見直さないといけない」と痛感しました。複数で会得した知識を他の職員と共有し、今後はWHO・CCDC・厚生省の3者の定めた唯一の除菌方法で感染予防をしていきたいと思っています。

ゆたか生活支援事業所あつた
牧野泉

10.15

新型コロナウイルス感染症への取り組み

日中事業所は一定期間の閉所など、ある程度の対応と正常化への流れを見通すことができます。ですが閉所できない入所施設やGHでは先の見えない長期的な戦いを強いられること、そのための綿密な準備があることを今回の報告で改めて目の当たりにしました。

危機感と対応のレベルに大きなギャップがあることは認識しなければなりません。事業所同士関わる人同士がお互いの状況を思いやる必要があります。日常的なコミュニケーションは円滑か、一度振り返る機会です。

なるみ作業所 須澤守

「いつ感染が発生するか」という不安や緊張感が常にあります。「陽性者にどう対応する?」「検査はどこで受ける?」「他の利用者対応は?」「指示を出してください!」と混乱した現場報告は、「もし自分の事業所で発生したらどうしたらいい?」と考えながら聞きました。

利用者の命と健康を守るため、「知らないでは済まされない」知識や情報(感染症の基礎知識、かかりつけ医との連携、初動対応、濃厚接触者対応、備蓄品等)を職場で点検し、第二波に備えます。

リサイクル港作業所
木村美紀

10月15日に開催された研修では、「入所型施設の感染症対策」「グループホームと日中事業所での対応事例」、そしてゆたか福祉会からは「新型コロナウイルス感染症の発生を受けて」というテーマで報告が行われました。

研修後のアンケートでは「スムーズ研修に慣れていくことが大事」「質疑応答の集約をチャットで行う時の留意点があった」「名障連には支えあえる志を同じにする事業所が沢山あることを再確認した」という感想が寄せられました。グループホームを使っている研修受付やアンケートも実施され、学びの多い研修となりました。

表紙の作者紹介

「帰り道」 トライズ 福吉 幸実さん

僕の実家から見える夕陽がきれいで、思い出していたら、ふと頭の中で「にんげんっていいな」という歌がマッチすると思い、クマさんも描きました。

「クマさんたちが夕陽に向かって帰っていく」というこの絵を見た人たちが、生きているということを実感して、何か重なるものを感じてもらえれば幸いです。

職員より

作品は、夕焼けの風景と「にんげんっていいな」の歌を連想して、その中に登場するクマさんも描かれています。クマさんが「にんげんっていいな〜」と歌っているようです。

最初に登場して頂いたのは2020年1月号、雪を被った合掌造りの風景でした。2回目は「桜の木の下で」と題した4月号の表紙です。冬、春に続き、今回は秋をイメージしてご依頼しました。



9月

- 1日(火) 法人安全衛生委員会
 2日(水) 防災伝達訓練
 11日(金) 新管理職研修
 12日(土) 2020年度正規採用職員
 「介護援助技術講習」
 14日(月) 事業運営推進会議
 16日(水) 副所長会議
 18日(金) 社会福祉士相談援助実習
 合同ガイダンス
 23日(水) 所長会議
 25日(金) 広報・ホームページ編集委員会
 28日(月) 研修部会議
 ※研修及び会議は基本的にWebと対面の併用開催



ありがとうございます
ご返信しました

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

小野寺由里子
石元 憲明
瀬口 昭代

(9月28日〜10月15日手続き分)
順不同敬称略

賛助会員新規加入者・
更新者(芳名一覧)

お詫びと訂正

ゆたか福祉会広報No.453(先月号)に掲載しました「そのひとらしく働く暮らす Vol.90」において、國島昂さんのお名前が昂となっていました。お詫びして訂正いたします。

広報・454号

2020年11月号(2020年11月10日発行)

定価1部100円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

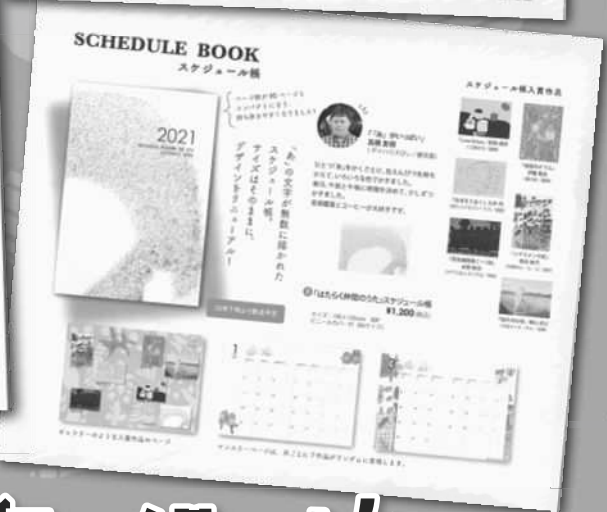
法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口6,000円、
 賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
 ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会



2021 カレンダー販売の取り組みが始まる！

多くの皆様のご協力をお願いします。

今年もカレンダー販売の時期を迎え、作業所の仲間達からは「ボーナスめざして頑張ろう！」の声が聞こえてきています。各事業所では10月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、カレンダー販売の取り組みがスタートしました。例年、年末までの約2ヶ月間、作業所のニュースや注文チラシ、カレンダーの商品見本などをセットし、関係する皆さんの事業所を訪問するなど、各事業所とも忙しく活気にあふれる時期となりますが、今年度はコロナ禍のため訪問は控えるなど各事業所では様々な工夫をしながら取り組んでいます。

このカレンダー販売の取り組みは、今から30数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう！」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆様にご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

今回も「働く仲間のうた」カレンダーをはじめ、様々な種類のカレンダーがそろっています。ぜひ多くの皆様にご協力をお願いいたします。

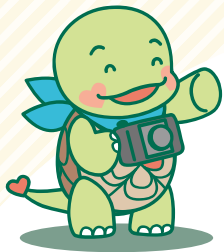


☎ **052-698-7356**

いわくち
法人本部 岩口まで

- * チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。
- * 各施設でも取り扱っております。

私たち 3 回目の 成人式を迎えました!



9回目の連載です。登場する仲間も増え、今回は4Pでの紹介です。ゆたか福祉会との関わりが、30年以上となる皆さんも多く、様々な変化がみられます。その人生に触れながら、これからも願いや想いに寄り添い、伴走者として歩みたいと思います。



作業所で40年以上働き、今はホームで暮らしています!

金原 美和子さん

なるみ作業所

●還暦を迎えても若々しく、ハツラツとしている金原さん。「グッドモーニング」「サンキューベリーマッチ」等、英語を交えてかっこよくお話しし、一緒に過ごす場には自然と笑顔が溢れます。これからも今と変わらず、元気でチャームングでいてくださいね!

ゆたか生活支援事業所みどり

●グループホームに入所されて11年。“やる事やってから”が口癖の責任感が強い金原さんです。自宅で過ごす事も、みんなと楽しい時間を過ごす事も大好き。取り組み後の感想は“まあまあ”。金原さんにとっての“まあまあ”は満点評価です。折り紙や塗り絵や編み物が得意で“みんなに見てもらいたい”と常に前向きです。



西尾 仁さん

なるみ作業所

●いつも「〇〇くん、(モップ掛け)上手じゃん!」「〇〇くん、大丈夫?」と周りの仲間を励ましつつ、仕事に一生懸命取り組まれています。60歳になり「楽しい事をもっとしたい!」という気持ちも出てきましたが、「80歳まで仕事頑張る!」と仕事への熱意も健在です。



ゆたか生活支援事業所みどり

●グループホームでの生活は8年目になります。以前は毎週末帰省をされていましたが、今は月一回になり、ホームで過ごす時間が長くなりました。食事のあとには「今日も美味しかった!」、旅行のあとには「最高だったー!」と、どんな時でも喜びを表して下さいます。楽しみにしていた大相撲名古屋場所、来年こそは観に行きましょう!

ほりこし かつゆき 土屋越 勝之さん



リサイクルみなみ作業所

●作業所が設立された翌年1984年から入所され、ビン、缶の選別作業を行ってきました。2005年からは現在の工場で、ペットボトルの選別作業を行い、36年間、頑張って来られました。夏の繁忙期は汗びしょり。黙々と作業に取り組み、たくさんのキャップを外した後は、みんなでストレッチ体操をして体をほぐします。

日帰り旅行の実行委員でしたが、今回はコロナ禍で作業所内のレクリエーションに変更。魚釣りのゲーム担当となり、画用紙で色々な魚をつくり、ゲームを盛り上げてくれました。休日は空港へ行き、大好きな飛行機を見ながら喫茶店でコーヒーを飲むのが至福のひとつときの堀越さんです。

リサイクルみなみ作業所で共に働き、今はホームで共に暮らす仲間です /

よしだ まゆみ
吉田 真由美さん

グループホームエール

●赤いTシャツを着てアルパカと還暦の写真を撮ってきました。ふわふわのアルパカに触って、嬉しそうにされているのが印象的でした。

「広報に一言」とお願いすると「体は傷だらけだけど、どうにかこうにか60まで生きてきました。これも私に関わってくれた人たちのおかげだと思います」と指で机に文字を書き、丁寧な言葉で伝えてくれました。



2015年からエールで暮らしているお二人

ほった やちよ
堀田 八千代さん

グループホームエール

●ゆたか福祉会の運営協議会委員を務める仲間想いのしっかり者です。ホームではパソコンを使い、文章や絵を書いて過ごしています。伝えたい事をWordで書き、背景に色を付けたり、可愛く枠で囲ったりと、工夫が

たくさん施してあります。還暦を迎えての一言では「もう一回り72歳までがんばるぞー!」とパワー溢れる言葉をにこやかに話されました。

ゆたか作業所

●ゆたか作業所デイ現場に来てから6年がたちました。慣れ親しんだ仲間たちの中にいることが、とても大事な時間だと感じていらっしゃるようです。活動中での楽しみは共同制作でのアート作品作り。みんなの笑顔と個性を詰め込んだような作品が多く、題名や詩のアイデアも出されます。最新作の題名は「妖怪アパート〜おばけのホームステイ」。



みのり共同作業所

●今年4月、長年働いていたリサイクルみなみ作業所から、みのり共同作業所に異動し、現在はウエス現場で作業に励んでいます。仲間誕生日カードを渡したり、自らの経験を伝えたりと気遣いができる優しい性格の持ち主です。食堂で開催した還暦祝いではサプライズということもあり、「ホントに?嬉しい!」と驚きと感動の声が聞かれました。スライドでこれまでの歴史と思い出を振り返り、記念品としてアルバムが手渡されました。

さはし ゆうじ
佐橋 裕治さん

グループホームエール

●エールに来て1年が経ちます。大好きなコーヒーを日課に、日々ゆったりと過ごされています。気持ちはまだまだ若く「20代!」という佐橋さん。好きな食べ物はカステラやパンで、いつも美味しそうに心配なくらいの速さで食べられます。これからも健康に気を付けながら、好きなものをたくさん食べられるように暮らしていきましょう。

ゆたか作業所

●デイサービスみなみが開設した翌年の1986年、25歳の時からの利用です。それから34年、デイ現場でゆったりと過ごされています。周囲のみんなも佐橋さんのペースを大事にされ、自分なりのペースで参加することができています。みんなを見渡せる茶色いソファが佐橋さんの特等席。みんなの中に自分の居場所があるようです。



のぎもり みさ
野木森 美佐さん

リサイクルみなみ作業所

●1992年にゆたか作業所所属でリサイクル現場配属となり、以来リサイクルの仕事をして現在に至ります。普段はマイペースですが、作業が始まると凛々しい顔つきで、とても早く異物やペットボトルを処理しています。還暦を迎えて「これからの抱負は何ですか?」とお伺いすると、「頑張って仕事したいです」と話してくださいました。



ゆたか生活支援事業所みなみ

●ホームに住んで20年。いつも元気で頑張り屋さんの美佐さんは、歩くのもとても早く、置いて行かれることも度々。食事準備やゴミ捨て掃除など、誰よりも早く手伝い、仲間を引っ張っていつける存在です。誕生日にはヘルパーさんと「なばなの里」に行くのが恒例ですが、今年はコロナ感染拡大の為、行くことができずガッカリ。終息して行ける日を楽しみにされています。

さこだ としみ
迫田 敏己さん



トライズ

● 1993年に入職した迫田さん。回収に入った当初は、仕事を休みがちで「直ぐに辞めることになるのではないかと不安を抱えた日々でした。本人も「まさか60歳まで勤められるとは思っていなかった」と語ります。
現在では大ベテランとなり、新しく入った仲間や職員に仕事

を教える立場です。性格は恥ずかしがり屋ですが、時折見せるお茶目な一面があり、職場を和ませてくれる存在です。中日ドラゴンズが大好きで、テレビで観戦したり、中日スポーツを読み楽しんでます。最近は疲れやすく休むこともありますが、「一日でも長く一緒に働けたら」と願っています。

とくもと まさよし
徳本 正義さん

ワークセンターフレンズ星崎

● 学校卒業後は一般就労をしていた徳本さん。体調を崩してしまい仕事を辞めた後は、高齢となっていたお母さまと一緒に生活をしていました。お母さまが亡くなり「もう一度働こう!」と決め、フレンズを利用することになりました。今から9年前のことです。
入所当時は一般企業で働いていた力

を存分に活かし、B型現場でバリバリ働いていました。現在は年齢と体調への影響を考慮し、生活介護現場で働いています。それでも仕事に向かう姿勢は相変わらず厳しく、昔のように思うように働けない自分にもどかしさを感じつつも、悪戦苦闘しながら一生懸命に働いています。生活面では「結婚したい」という夢を持ちつつ、今後の生活について考える日々です。

夢は結婚。
仕事もまだまだ、
がんばろう!



森井 滝代さん ふれあい共同作業所



● 作業所では8月の土曜開所日に、3現場を巡る形でお祝い会を行いました。各現場では看板や横断幕などを準備してお迎えし、1人ひとりのなかまがお祝いの言葉を述べました。森井さんからはお礼の言葉にかえて、「のんびり班」では“365歩のマーチ”、「元気班」では“くちなしの花”「にこにこたんぼぼ班」では“雨の慕情”の歌を披露。お祝いのケーキも食べ、とても幸せそうでした。

ゆたか生活支援事業所なるお

● 昭和62年から鳴尾ホームに入居され、平成28年に高齢者用のほしぎきホームができ、引っ越しをされました。今年の3月には、体調を崩されての長期入院もあり、退院後は体力が落ち、送迎車を利用するなど、生活にも変化がありました。今年は外出の機会も減りましたが、10月には、日帰り旅行を楽しんできました。

きむら たまき
木村 玉熙さん

あかつき共同作業所

● 1988年、あかつき共同作業所が無認可だった頃からの仲間です。1999年に福祉村キラリンと一ふに入所され、2016年に再びあかつき共同作業所に戻られました。新年会ではその流れを写真で見たり、出し物で

は木村さんが好きな「きよしのズンドコ節」を「たまきのズンドコ節」と替え歌にして披露しました。赤いチャンチャンコを着て、うれし涙を流しながら「ありがとう」とみんなに伝えた木村さん。還暦と言われてもピンときませんが(笑)、どうぞこれからもずっと変わらずいてください。



※木村さんは2019年12月に還暦を迎えられました。前回、紹介できませんでしたので、今回の掲載となりました。

ゆたか希望の家 \ 開所当時からの皆さんです /

すぎの よしひこ
杉野 嘉彦さん



●最初の入所は1980年20歳の時でした。それから14年を希望の家で過ごされ、1994年リサイクル港作業所の開所を契機に卒業されました。グループホームや通勤寮での生活も経験されましたが2008年に健康面での心配もあり、再入所されました。

職員の手伝いをされたり、気になった仲間を見守っている場面も多々お見掛けします。衣・食・身辺管理などで自立した面を持たれており、自分の好きなことを楽しんでいる杉野さんです。

はせがわ こ
長谷川 みさ子さん



●作業棟班、あすなる班を経て、現在はことぶき班で過ごされています。現場では腕のリハビリも兼ねて机の上のお手玉を動かしたり、壁面制作にて画用紙に色紙を貼り付けたり等の活動を行っています。

最近では周りの様子に対して、声で感情表現している場面も多いように感じます。甘いものが好きで、嬉しそうな声で「あーあ」「まーまー」などとお話したり、腕を大きく動かし全身で喜びを表現されます。時折始まるみさ子さんのおしゃべりが、周りの雰囲気をやかにしてくれます。

\ あすなる班の発足当時からずっと一緒のお二人です。これからも健康に気をつけて楽しい毎日を /

とだ さよこ
戸田 小夜子さん



●紙すきグループでは、「道具を机まで運ぶ」「タオルを叩いて製品の水気を切る」などの作業を、無理のないペースで行っています。班の毎月の取り組みや一泊旅行にも参加されています。居室ではTVを見たり、音楽を聴いたり、ソファでのんびりと寛がれ、食事ではパンやたこ焼きが好きなようです。

また月に数回、好きなビールを飲む機会もつくり、嬉しそうに飲まれたり、毎年の年始には、日帰り帰省を楽しんでいる小夜子さんです。

まつなみ けいこ
松波 恵子さん



●紙すきグループで「牛乳パックを干す」「千切る」「ミキサのスイッチを押す」などの作業に、ご自身のペースで参加されています。生活棟では居室やリビングなどでTVを見たり、のんびり座って過ごされている恵子さん。パンが好きなようで「明日パン!」と確認されることが、職員とのコミュニケーションのひとつになっています。

今まで休日は、散歩に参加することが多かったのですが、現在はご自身でドライブなども選ばれ、参加されています。

さとう とおる
佐藤 徹さん



つゆはし作業所

●一見凛々しく男らしいお顔立ちの徹さんですが、実は甘い物やおでかけが大好き。好きな物や旅行の話をして下さる時の笑顔とのギャップには、職員一同イチコロです!! ホームで行ったお祝い会には、「ほかほか班」の職員も招いていただきました。作業所では見ない別の素顔も見せてもらい、「とても穏やかに過ごされているのだなあ」と、ほほえましく思いました。

ゆたか生活支援事業所なかがわ

●無口で寡黙な雰囲気を持つ徹さんですが、ふとした時に素敵な笑顔を見せてくださいます。2月に作業所や以前ホームで働いていた職員を招待し、還暦のお祝いを行いました。「ディズニーランドに行きたい」「料理をもっと頑張りたい」「いつまでも若くいたい」と話されていた徹さん。若々しい心とたくさんの夢を大切に、これからも笑顔の多い日々を過ごしていきたいと思います。



にこやかな笑顔を私たちに残し、11月8日、佐藤さんはその60年の人生を終えられました。出会えたことに感謝です。合掌